

学校教育目標		めざす子どもの姿		総 合 評 価									
だれにもやさしく げんきよく じぶんから学ぶ武石の子		学び合い高め合う子ども		今年度は、重点目標の達成に向け中間報告では、概ね良好に進みました。特に、ICT を活用した思考・表現活動の促進や、地域・南部支会との連携強化、そして教職員チームによる児童支援体制の機能強化に成果が見られました。一方で、児童の自己肯定感のさらなる育成、対話的な学びのさらなる発展、困難な課題に粘り強く取り組む力の醸成が今後の課題です。教職員一丸となり、これらの改善策を徹底してまいります。									
今年度の		「良いところを見つける・生活を整える・自分から考え、伝える」											
重点目標		成果と課題				総合評価		改善策・向上策			学校関係者評価		
重点1 豊かな人間性 自分の良さと共に、 友だちの良さを認められる		・児童が、得意なことや好きなことを言葉で表現できるようになりました。 ・授業の中で、友達の考えの良さを認め、自分の気持ちを伝え合う場面が多く見られました。 ・総合的な学習の時間、行事、特別活動等で、意欲的な活動に取り組むことができました。 ・自分の良さに気づいていない児童も多く、自己肯定感の育成に課題が残ります。						・友達の良い点を見る時間、考える時間を意図的につくり、相互理解を深めます。 ・児童が活躍する場を多く設定し、友達から認められる経験を通して自己肯定感を高めます。 ・保護者様からのご意見（お子様の成長に関する情報）をアンケート等で収集し、指導に役立てます。					
重点2 健康・体力 活き活きと活動できる子		・休み時間は、自由で活発な活動を楽しんでおり、職員と児童と一緒に遊ぶ姿も多く見られました。 ・自然に親しみ、元気いっぱい活動する様子が見られました。 ・失敗やうまくいかなかったことに対し、気持ちが沈んでしまう児童がいます。 ・継続して運動に取り組む時間を確保することが難しい現状があります。						・児童一人ひとりの個性に応じ、活き活きと活動できる多様な場（居場所）をつくります。 ・運動への意欲を喚起するため、目標設定や掲示物など、動機付けとなる仕掛けを工夫します。					
重点3 資質・能力の育成 課題に向かって粘り強く考え、 伝え、解決できる子		・ICT（情報通信技術）や学習カード、ロイロノート等の活用により、意欲的に考え、伝える活動を仕組みました。 ・難しい問題に直面した際に、途中で諦めてしまう児童が見られます。 ・自分の考えや思いを効果的に伝えることに課題を抱える児童が多いです。						・課題に向かって粘り強く取り組み、解決に至った具体的な児童の姿を教職員間で共有します。 ・「聞く力」「考える力」「チャレンジする力」に重点を置いて継続的に指導し、育成を図ります。					
領域	評価項目	評価の観点		成果と課題				A	B	C	D	改善策・向上策	
教 育 指 導 活 動	教科指導	授業改善		・児童が仲間の考えを聞いて、自分の考えを深める場面が見られました。 ・ロイロノート等の ICT を手段として活用できる児童は増えてきましたが、その先の主体性や対話的な学びの深掘りが今後の課題です。						○		・今後も「主体的・対話的で深い学び」を充実させるため野授業の在り方を探っていきます。 ・教職員間で授業実践や課題を気軽に共有・相談できる協働的な研修体制をつくっていきます。 ・児童の実態に応じ、ICT が有効な場면을絞って活用を推進します。	
		思考力・判断力・表現力を伸ばす		・児童の能力に合わせて、「書く」「話す」といった表現方法を紙媒体やタブレットで行うなど選択させることができました。 ・毎時間の振り返りを行うことで、表現の機会を確保できました。						○		・児童が「伝えたいくなる」学習問題のあり方を追究し、授業づくりを行っています。 ・多様な「表現力」を育むための取り組みを進めています。 ・自分たちで課題解決する力を育てていき、書く力や話す力をこれからも継続していきます。	
		家庭学習の充実		・ほとんどの児童が継続的に家庭学習に取り組みました。 ・毎日続けることを大切にしているので、手引きを有効な活用ができていませんでした。 ・取り組み方や内容、時間に、個々の差が見られます。						○		・取り組みが不安定な児童には個別で声かけを行い、保護者との連携を密にします。 ・量にかかわらず、全ての児童が家庭で何らかの学習に取り組めるよう工夫します。	
		南部支会の連携		・支会校（4 校）と連絡を取り合い、教科進度や情報共有ができています。 ・3 校交流で川遊び等、地域の自然に触れ合いながら交流を深めることができました。 ・「家庭学習」「メディア」「紡ぐの活用」など実効性のある連携方策をさらに検討する必要があります。						○		・各学年での交流をさらに推進し、地域の繋がりを深めます。 ・連携して学び合う機会として、児童発信の活動を進め、活動紹介や意見交流などの機会を推進します	
	特別活動	自発的・自主的な活動		・子どもたちは一人ひとり、自分なりにがんばっている姿が見られました。 ・個人差はありますが、児童会の役割を担当することにより、約束を守り責任ある行動がとれるように成長した児童の姿が多くみられました。 ・金管バンド活動等を通して、他学年間の交流や仲間意識の醸成、目標達成に向けた協働活動を経験できました。						○		・児童一人ひとりが自分の役割に責任を持って活動できるよう、指導を考えていきます。 ・活動の主体性を高めるため、その年度ならではの学級・児童会の特色が反映されるようカリキュラムを構築していきます。 ・各種行事や活動について、実施方法や準備体制の見直しを進めます。	
		道徳総合		・「道徳は答えが一つじゃない」と友だちの意見を聞いて考えを広げたり、深めたりする児童の姿が多く見られました。 ・地域の方と取り組む活動について、児童が「やらされている」と感じることなく、自分事として取り組めるよう工夫が必要です。						○		・体験活動等を通して、道徳や総合的な学習を他教科と関連づけて指導します。 ・活動の目的や意義を児童と共有し、主体的な取り組みを促します。	
学 校 運 営	家庭・地域との連携	相談・支援体制		・児童の様子や変化を見逃さず、教職員間で密に連絡を取り、対応を検討できました。 ・まなびの教室、ことばの教室、スクールカウンセラー（SC）、特別支援コーディネーター（特コ）など、関係機関との連携が機能しています。						○		・支援会議の開催や連絡ノートのやり取りを通して、関係者間の相互交流を図ります。 ・「支援計画」の作成・見直しの手順や時期を統一し、持続的な支援を目指します。	
		情報発信		・毎週、日々の学習活動の様子を写真や文章で発信できました。 ・ホームページの更新も頻繁に行われ、情報発信が充実しました。						○		・今後も、児童の様子や頑張りが伝わるよう工夫を凝らしたお便りの作成・発信を継続します	
		地域から学ぶ・地域の教育力の活用		・学年に応じた地域探検、施設見学、自然探索、農家訪問など、地域の魅力に触れる行事が定着しています。 ・放課後自習室への地域の方のご協力が増え、大変感謝しております。						○		・学校外の方との連携を深めることができる新たな活動のあり方を模索し、地域との連携のさらなる活用を図ります。	
	研修	授業力の向上		・授業を見合う研修を通して、授業力向上のきっかけをつかむことができました。 ・授業の様子を気軽に見合える協力的な雰囲気が職員間にあります。 ・一斉指導では、個々の学習ペースの差に対応することに難しさを感じています。						○		・個々の児童が「分かる楽しさ」を感じられるよう、これまでの方法にこだわらず、多様なやり方や教材にチャレンジします。 ・教材研究は教員間で互いにアドバイスをし合い、学びを深めます。 ・伝え合いの質を高めるため、教職員同士の授業実践の共有を定期的に行います。	
		情報の共有・全職員による学び合い・支え合い		・教職員チームとしての連携や、児童一人ひとりに寄り添った支援がしっかりと機能するよう努められました。 ・支援が必要な児童について、管理職や学年、他の先生方と連携し、適切な対応につなげることができました。						○		・良いところだけでなく、気になったことや児童の変化をそのままにせず、小さな情報でも交換し、全職員で見守る集団づくりを徹底します。	

A…達成された

B…ある程度達成

C…あまり達成されていない

D…達成されていない